

## 支援会員のみなさまへごあいさつ

感謝をこめて

私たちの美術館は大事に保管されていたいわさきちひろのほとんど全部である一万枚近くの絵本原画を元にしてスタートし、家族連れでのんびり過ごせる居心地の良い空間であり、アットホームで人間的なサイズであることをコンセプトとして今日にいたっています。しかも世界中の優れた絵本作家の原画コレクションが充実していて童画の収蔵では世界のトップレベルであることは、ささやかな自慢です。

私たちの美術館のもうひとつの特徴は、ひたすら赤ん坊や幼い子どもを描き続けたちひろが生涯をかけて念じ続けたこと——かよわい子どもたちが安心して生きていける世の中であってほしい、そのひとりひとりの個性の成長が大事に守られなければならない、そのためには、何よりもまず世界が平和でなくてはならない、戦争は絶対に許さないというテーマを、経営の方針として大切にしているということです。

美術館の冬の時代にあつて、われわれの小さな美術館も決して安定経営とは言えないけど、子どもの絵本美術館として世界に知られるようにまでなったのは、ひとえに私たちの仕事に賛成し惜しみなく応援して下さいました皆さんのおかげです。改めてお礼申し上げます。

公益財団法人いわさきちひろ記念事業団理事長  
山田洋次

山田洋次



ちひろさんの心を大切に

ちひろ美術館が開館して40年。世の中はずいぶん変わってきました。日本の子どものたちは豊かではあっても、本当に幸せなのか、と危ぶむ声が出てきています。いつも、子どもの幸せを願っていたちひろさんにとって、きっと心を痛めることだろうと思えることもいっぱい起こっています。

子どもの、真っ白な画用紙のような心に何を与えるかは、大人にかかっています。初めて目に入ってくるものは、美しいものであってほしい。ザラザラしていないもの。繊細でやさしいちひろさんの絵を見てもらって、心やさしい気持ちの子どもに育ててほしい。

私が子ども時代、トモエ学園で過ごしていた頃は戦争のなかでした。同じ時代に、ちひろさんは青春時代を過ごしていらっしやいました。ちひろさんの絵のなかには、かわいい子どもたちを決して泣かさないう、「平和」をずっと続けてほしいという願いがこめられています。

今も世界には戦火や貧困にさらされている子ども、豊かさのなかに暮らしながら暴力にさらされている子どもがたくさんいます。こんな時代だからこそ、ちひろさんや世界中の絵本画家が描いた「やさしさ」「美しさ」を伝えていきたい。

これからもみんなでがんばりますので、この美術館がずっと続けていかれますように。みなさま、どうぞ、よろしくお願いたします。

ちひろ美術館(東京・安曇野)館長  
黒柳徹子

黒柳徹子



## 寄付者一覧

2016年4月1日～2017年3月31日の期間中、寄附者のなかから、お名前の公表をご許可くださった皆さまをご紹介します(敬称略・五十音順)。

相澤 裕子、青山 博喜、赤澤 香恵、赤羽 大四郎、秋谷 洋子、秋吉 順子、浅沼 紀子、荒井 映荆花、安藤 清貴、石井 鈴子、伊関 美奈子、井土 都貴子、伊藤 昭彦、伊藤 幸一、伊藤 美智子、伊藤 芳子、上坂 紀夫、植田 浩二、上田 陸規、大崎 あけみ、大島 和枝、太田 美保子、大谷 眞知子、大野 絹枝、岡 敏子、岡田 早智子、岡本 育子、小川 澄子、小山内 美江子、小田 悦子、柏 いつ、柏原 文子、嘉戸 秀美、加藤 建、金子 眞理子、鎌谷 雄樹、神澤 千尋、上条 啓一、河田 茜、川端 弘子、喜入 晴美、菊地 勝幸、菊地 淳一、工藤 貴史、熊田 眞代、倉科 嘉夫、倉田 明久、栗原 眞知子、黒岩 淑子、小佐井 留美、越川 恵美子、小島 尚子、小平 恵子、小平 彩見、後藤 忠昭、虹釜 和昭、小林 律子、小林 克知、小松 宏江、小柳 ひろ子、斉藤 淳、佐伯 智子、佐伯 めぐみ、酒井 倫子、坂口 睦男、坂田 佳美、相模 一男、佐治 千里、佐藤 勝美、佐藤 忠仁、澤 太郎、信太 明男、下野戸 亜弓、下村 直子、白石 浩、白神 多恵子、白川 光雄、辛 丹淑、神保 和子、杉田 尚子、祐定 美枝子、鈴木 真寿子、鈴木 賢二、鈴木 こずえ、鈴木 美礼、砂田 規之、関 省吾、千田 幹雄、園部 愉理、染田 正広、征矢 野久、高野 恵美子、高橋 英子、高橋 節子、瀧口 恵子、田口 弘美、武田 登志子、竹濑 浩子、太刀川 久夫、立松 房枝、田中 正美、田中 美恵子、田中 恵、田畑 裕子、田丸 尚美、田村 裕子、田村 博康、近松 美喜子、土田 忠敬、坪田 慶子、中川 薫、中島 和枝、中嶋 智枝、中島 啓幸、中谷 至孝、中西 時夫、中村 収、中村 秀雄、中村 由美、那須野 郁子、難波 伸子、西尾 泰広、西村 修、新田 恵子、仁衛 琢磨、野崎 五郎、畠山 隆司、林 正、林 満智子、原田 聖子、藤生 よし子、藤田 誠、古川 勤、古旗 文夫、星野 宏子、本多 慶子、本間 久幸、前田 直美、益川 洋子、松浦 泰二、松崎 千春、松田 和子、松原 清、松本 恭子、水野 茂幸、水野 敬子、宮下 和也、宮島 正義、宮地 輝子、向原 真一、宗本 哲司、村上 弘治、村上 耕平、村上 妙子、村田 弘之、村松 敏夫、森江 さつき、森島 仁、森本 哲、山内 和子、山内 キヨ、山口 智徳、山崎 均、山下 昭美、山田 久夫、山本 たまき、山本 恵子、山元 寿美代、山領 まり、湯谷 信子、芳岡 伸行、吉岡 正俊、渡辺 法生

## ご遺贈に心から感謝申し上げます

わたくしは、いわさきちひろさんの絵が大好きです。子どもを生涯のテーマとして描き続けたちひろさん。ちひろさんの絵を見飽きることはありません。いつまでもちひろ美術館が続きますように。

2015年、62歳で亡くなられた女性の方から、この心のこもったお言葉とともに、ご遺贈が寄せられました。この方は、生前、お父さまのご看病の合間に、ちひろ美術館・東京に足を運んでくださり、静かで心穏やかな時間を過ごして下さっていたそうです。私たちは、ご遺志にこたえられますよう、東京、安曇野両館ともに、みなさまに憩いの時間を過ごしていただける美術館づくりに励むとともに、より一層充実した展覧会や教育普及にも力を入れ、有意義な活動を行ってまいりたいと思います。2017年春、ちひろの庭に、心からの感謝をこめて、ライラックの植樹をいたしました。ここにご報告させていただきます。

## 公益財団法人いわさきちひろ記念事業団は、次のような目的をもって活動しています。

子どものしあわせと平和を願いつづけた絵本画家いわさきちひろの業績を記念し、文化の民主的・多面的発展に寄与する活動をおこなう。

散逸しやすい絵本の原画を人類の文化遺産と位置づけ、絵本芸術等に関する資料を収集・保管・展示して教育的配慮のもとに一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業をおこない、あわせて、これら資料に関する調査研究をおこなう。

(「公益財団法人いわさきちひろ記念事業団定款」より 抜粋)

## 支援会員の輪を広げてください。

ちひろ美術館の支援会員制度について、ぜひお知り合いにご紹介ください。詳しいご案内やチラシをご希望の方は、希望部数と送付先(お名前、ご住所、お電話番号)をお知らせください。

ちひろ美術館・東京 支援会員制度担当  
〒177-0042 東京都練馬区下石神井 4-7-2  
TEL.03-3995-0612 FAX 03-3995-0680  
e-mail chihiro@gol.com

申し込み先

公益財団法人 いわさきちひろ記念事業団 支援会員制度

# 2016 活動報告書



いわさきちひろ 春の庭 1969年



公益財団法人いわさきちひろ記念事業団

ちひろ美術館・東京

〒177-0042 東京都練馬区下石神井 4-7-2 TEL.03-3995-0612 FAX 03-3995-0680  
e-mail chihiro@gol.com



公益財団法人いわさきちひろ記念事業団

安曇野ちひろ美術館

〒399-8501 長野県北安曇郡松川村西原3358-24 TEL.0261-62-0772 FAX 0261-62-0774  
e-mail chihiroa@seagreen.ocn.ne.jp

<https://chihiro.jp/>



2016 活動報告書

日ごろからの温かなご支援とご協力に心より感謝申し上げます。おかげさまで、ちひろ美術館・東京の開館40周年、安曇野ちひろ美術館の開館20周年を翌年に控えた2016年度は、通常の活動に加え、周年事業に向けた準備を推進するとともに、ちひろの絵で愛される『窓ぎわのトットちゃん』の電車の教室を復元した「子どもの展示室(トットちゃんの部屋)」(安曇野ちひろ美術館)の新設、国立国会図書館国際子ども図書館や日本児童図書出版協会等と連携し、日本の絵本の歩みを海外で伝える活動など、絵本や子どもの文化の発展のための活動を、両館の内外で展開することができました。

1 美術館の設置・運営

来館者総数	ちひろ美術館・東京	安曇野ちひろ美術館	合計
	50,557人 (前年度比 105.8%)	136,192人 (前年度比 101.7%)	186,749人 (前年度比 102.8%)

2 展覧会・講演会の開催

ちひろ美術館・東京での展覧会



- ① 3月1日～5月22日  
ちひろのムーブマン  
『はしれ、トト!』 窓ぎわの絵本づくり展
- ② 5月25日～8月7日  
—絵のなかのわたし—ちひろの自画像展  
村上春樹とイラストレーター  
—佐々木マキ、大橋歩、和田誠、安西水丸—
- ③ 8月11日～11月6日  
Kawaii・ちひろ展  
あべ弘士の動物王国展
- ④ 11月9日～2017年1月15日  
ちひろ・冬のしつらえ  
ピエゾグラフによる『窓ぎわのトットちゃん』展  
赤羽末吉・中国とモンゴルの大地

安曇野ちひろ美術館での展覧会



- ① 3月1日～5月10日  
ちひろ—その心、花にたくして  
ちひろ美術館コレクション 花の博覧会
- ② 5月14日～7月11日  
ちひろのスケッチ紀行  
ちひろ美術館コレクション ふしぎな動物たち  
あべ弘士の動物王国展
- ③ 7月15日～9月27日  
窓ぎわのトットちゃん—  
「みんな、いっしょだよ。」展  
BIB50周年ちひろ美術館コレクション  
絵本の歴史をつくった画家たち
- ④ 10月1日～11月30日  
愛書総覧 ちひろの本棚  
「わたしのトットちゃん」ピエゾグラフ展  
ちひろ美術館コレクション 無限の夢幻  
没後10年「長新太の脳内地図」展

他館と提携する展覧会

- 越前市武生「ちひろの生まれた家」記念館(福井県)  
①4月21日～6月27日 ②7月8日～9月5日 ③9月16日～11月28日 ④12月9日～2017年3月7日

3 作品・資料の収集、保存、並びに、調査、研究

2016年度、新たに322点を収蔵

いわさきちひろ	9,522点
世界の絵本画家	17,681点
世界33の国と地域206人の画家	
合計	27,203点 (2017年3月31日現在)



4 教育活動

東京館

- 4月23日「ちひろのムーブマン」関連講座「クロッキーを描いてみよう!」(図1)
- 11月13日 親子で楽しむ文化講座 ファーストミュージアムデー (図2)
- 11月27日 子どもの幸せと平和を考える講演「平和への願い」(図3)



安曇野館

- 5月14日 「あべ弘士の動物王国」展関連イベント  
あべ弘士によるワークショップ「キリンをつくろう!」(図4)
- 通年(毎日開催) ワークショップ「海のもの」と山のもの」のお弁当をつくろう (図5)
- 9月6日～7日 松川中学校職場体験実習の受入 (図6)



5 普及活動

平和のパネル展

- 7月9日～8月31日 浦安市富岡公民館、浦安市当代島公民館
- 7月19日～25日 鎌倉市役所 (図7)
- 8月3日～17日 石川県庁ロビー



6 国際交流

- シンガポールのAFCCにおける「日本の絵本のあゆみ展」および「フォーカス国：日本」の実施
- 5月25日～29日 AFCC (図8)
- 5月25日～7月10日 展覧会
- 10月25日～27日 韓国の絵本画家、編集者等の研修受け入れ (図9)



2016年度刊行の書籍等 <国内>『村上春樹とイラストレーター』(ナナロク社)、『しかえししないよ』(日野原重明・詩 いわさきちひろ・絵 朝日新聞出版)  
<海外>(中国: 興風社)『あかちゃんのくるひ』、『ことりのくるひ』、『ゆきのひのたんじょうび』、『ぼちのきたうみ』  
(台湾: 親子天下)『はくちょうのみずうみ』、『しらゆきひめ』、『おやゆびひめ』、『あおとり』、『ちひろの絵のひみつ』

2017年度、東京館の開館40周年・安曇野館の開館20周年の事業から

2017年4月12日 記念式典と感謝の夕べ

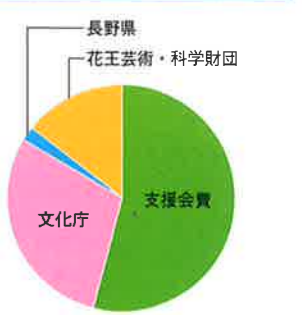


これまでお世話になり、支えてくださった方々をお招きしました。

8月30日 特別記念対談 高畑勲×奈良美智



いわさきちひろの魅力、高畑さんと奈良さん、おふたりの制作の原点、「絵の奥をみるということ」「表現すること」についてたくさんのスライドをまじえながら、じっくりお話しいただきました。



支援会費	1,914,697円
文化庁 平成28年度地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業	1,031,636円
長野県 芸術文化活動推進事業・首都圏における長野県文化芸術発信事業	72,845円
花王芸術・科学財団 芸術文化助成金	500,000円
<b>合計</b>	<b>3,569,178円</b>